

## ◆ 今週のコメント

- ・ 風しんの報告が1例(男性, 40歳代)あります。症状は発疹, 発熱です。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は不詳です。ワクチン接種歴は不明です。平成20年1月以降, 定点把握対象から全数把握対象の五類感染症に変更されて以来, 年間累積報告数は平成20年 1例, 平成21年 1例, 平成22年 0例, 平成23年 0例となっています。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は, 6.14(393例)で, 前週(2.70)に比べ2倍以上増加しています。近畿圏内で見ると, 最も多かったのが和歌山県(12.84), 次いで, 滋賀県(11.75), 大阪府(8.91), 兵庫県(8.37), 奈良県(8.11), 京都府(7.55)の順で, すべて前週よりも増加しています。今後の動向に御注意下さい。  
また, 京都市の今シーズンのインフルエンザ発生状況を下記に掲載しています。  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

## ◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は, 8.95(331例)で, 先週(5.49)よりも増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 1例(肺結核 なし, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし  
【1月以降の累積報告数 1例(肺結核 なし, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし】
- ・ 五類: 風しん 1例【1月以降の累積報告数 報告数 1例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点64, 小児科定点37, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	6.14	393
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	8.95	331
	② 水痘	1.30	48
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.76	28
	④ 突発性発しん	0.43	16
	⑤ RSウイルス感染症	0.35	13
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

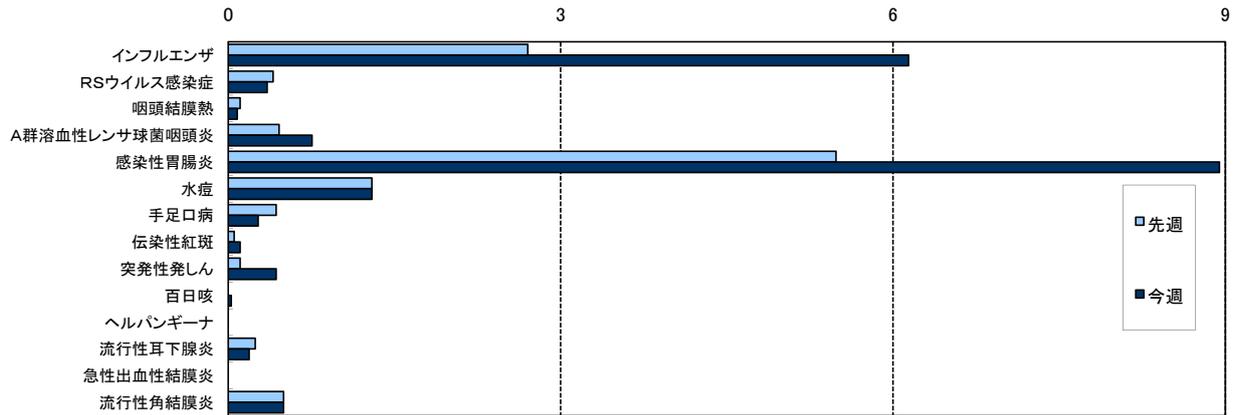
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

(注) 京都市のデータは, 平成24年1月19日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

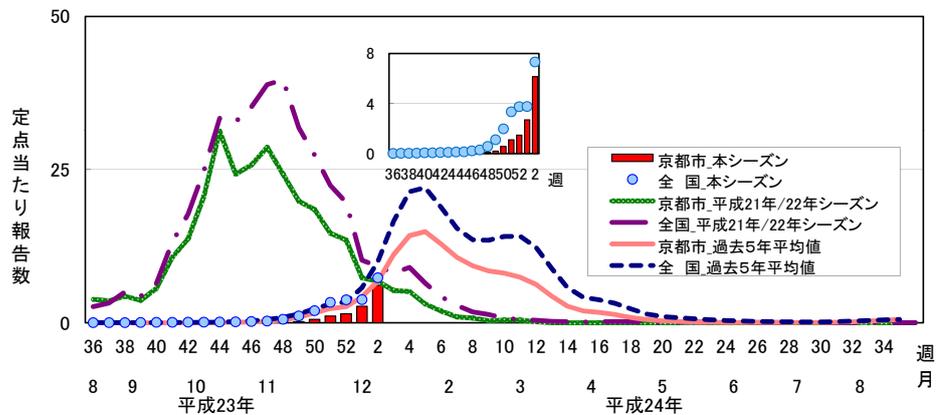
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第2週)と先週(第1週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第50週	37
第51週	73
第52週	97
第1週	173
第2週	393
累積報告数 (第36週以降)	813



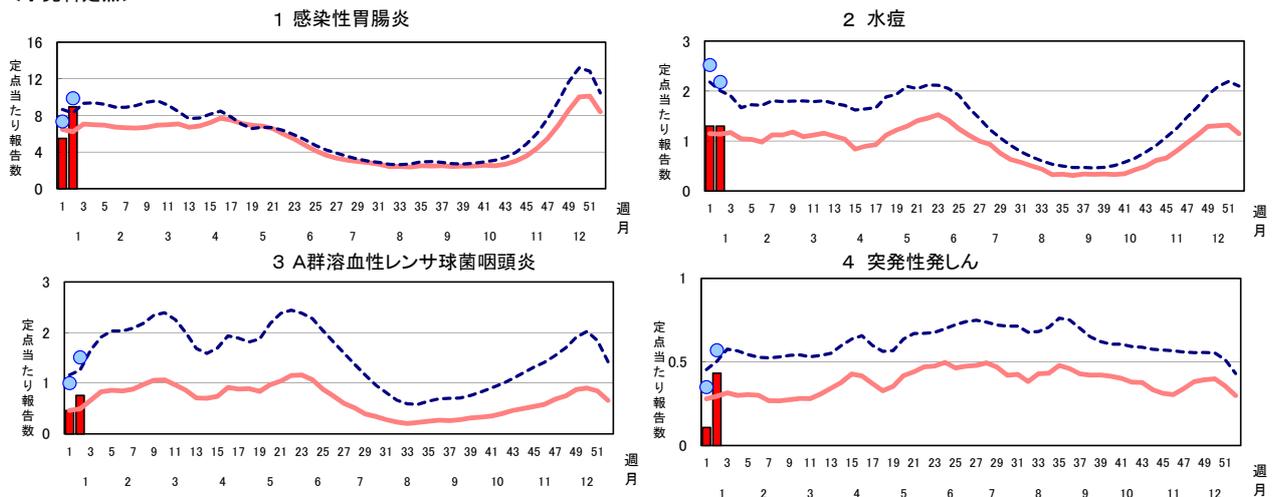
※平成21年/22年シーズンは、新型コロナウイルスの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23年の平均値です。

※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。

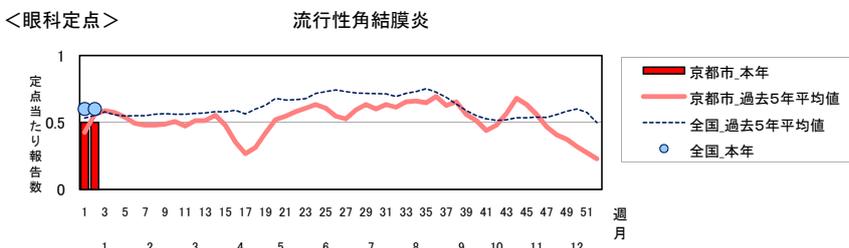
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



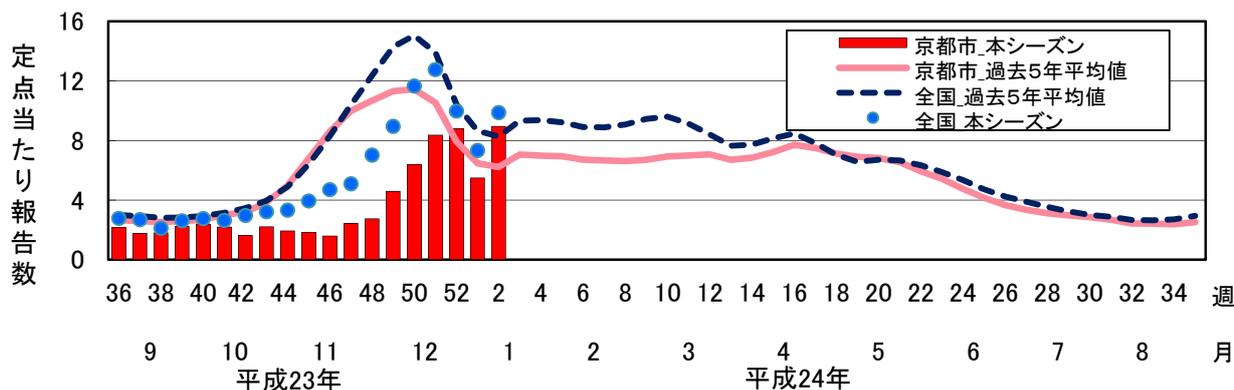
## 第2週(1月9日～1月15日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、8.95(331例)で、先週(5.49)よりも増加しています。今後の動向にご注意ください。

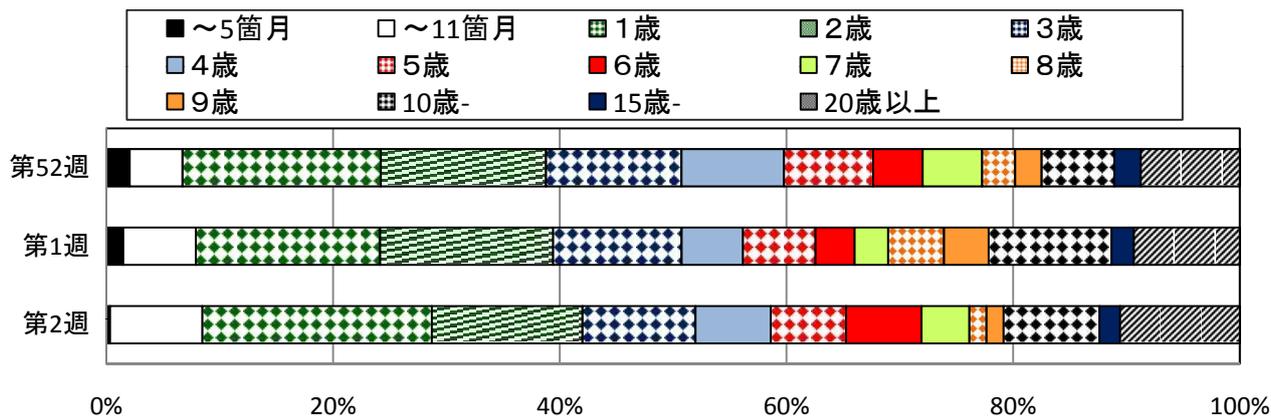
年齢階級別では、すべての年齢階級で報告があります。

京都市衛生環境研究所では12月にノロウイルスGⅡ 4検体、1月にノロウイルスGⅡ 9検体、ノロウイルスGⅠ 1検体を検出しています。また、全国ではノロウイルスGⅡの報告が大半を占めています。

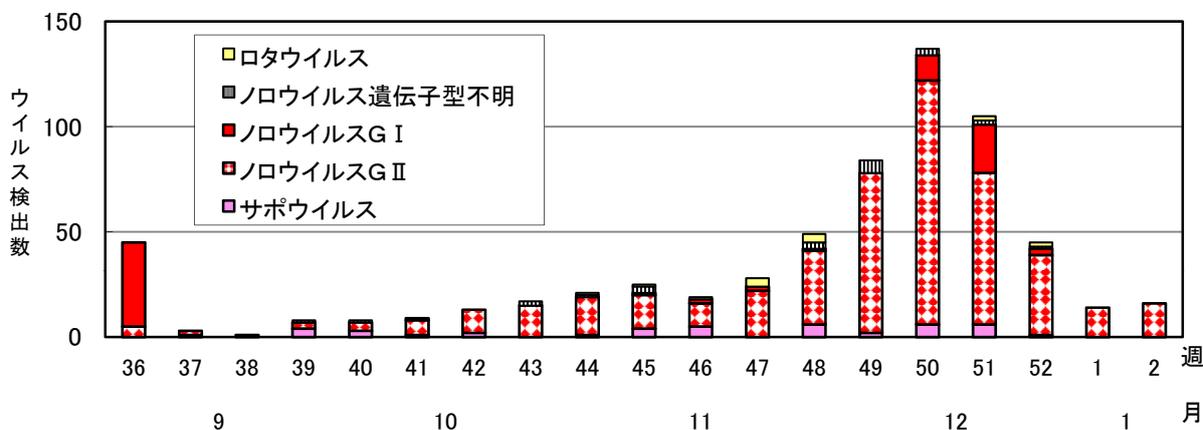
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移



全国の今シーズンのウイルスの検出状況(平成24年1月20日現在)



\* 第36週は集団発生(GⅠ:39件)を含む